

1	表題(課題)名	国道49号近接箇所での現場安全対策について	
2	工事(業務)名	国道49号 横越地区改良その3工事	
3	受注者名	株式会社 坂詰組	
4	工期	令和7年3月28日 ~ 令和8年3月31日	
5	担当技術者(立場)名	現場代理人	(よしむら ゆうた) 吉村 友汰
6	担当主任監督(調査)員	建設専門官	
7	課題区分名	⑥安全管理 ()	
8	工事(業務)概要	国道49号 横越地区の地盤改良工事である。	
9	【施工における 課題・問題点 等】		
	<p>当現場は、国道49号横雲バイパス上下線がセパレートした箇所で地盤改良を施工する。そのため、暫定上り線追越し車線から現場へ出入りしなければならない。交通量も多く、走行速度も速いため、後続車の追突防止や交通事故等に、特に配慮し現場への搬入を計画しなければならなかった。</p> <p>また、地盤改良工を施工するにあたり、現場は横雲バイパス上下線に挟まれている状況のため、セメント、改良土の飛散防止を綿密に計画し公衆災害防止を徹底する必要があった。</p>		
10	【実施内容】		
	<p>●現場への出入り及び搬入</p> <ol style="list-style-type: none"> 追越し車線からの搬入のため、最も後続車両が少ない曙町二交差点より左折し、暫定上り線追越し車線を走行し、現場へ入場する。退場の際は、曙町二交差点、新潟市中央区方面からの走行信号が赤になったタイミングで誘導に従い退場する。 現場出入口での交通誘導は、見通しが悪いことに加え、曙町二交差点信号を目視することができないため、交差点1名、出入口1名に交通誘導員を配置し無線で連携し事故防止に努めた。 通勤時間帯は特に交通量が増加するため、大型車両での資機材搬入、大型ダンプでの土砂運搬は行わない。午前8時30分以降の時間帯で搬入・運搬を徹底した。 <p>※上記内容については所轄警察署の見解を基に決定した。</p> <p>●飛散防止対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 施工機械のロッド及び攪拌翼についた改良土が走行中の一般車両に飛散することを防止するため、ロッドカバーを設置した。また、セメントスラリー圧送時のホース及びジョイント部も養生した。 攪拌翼部については、カバーを設置することが出来ないため、地上より2.5m程度の高さでシート養生を行った。 		
11	【実施結果】		
	<p>◆現場への出入り及び搬入</p> <ol style="list-style-type: none"> 曙町二交差点を左折することにより、後続車両が少ないため現場への出入りが安全であり、注意喚起看板も増設したこともあり交通災害や苦情等は起きていない。 所轄警察署の見解を基に交通誘導員を2名配置したことにより、一般車両の切れ目が確実に分かり大型車両も問題なくスムーズに入退場が出来ている。 午前8時30分以降は通勤ラッシュ時間帯を過ぎているため、交通量が一定で資機材の搬入、ダンプ運行も安全に行えている。 <p>◆飛散防止対策</p> <ol style="list-style-type: none"> ロッドカバー設置部は飛散の心配がなく、国道脇での作業も問題なく施工できた。 攪拌翼部のシート養生については、地上より2.5m程度と比較的高いため、常時1.8mのシート養生高さとし、地盤改良施工箇所は、2.5m程度になるようシートを継ぎ足して飛散防止とした。シート自体の飛散防止も兼ねているため、より安全であった。 		

(様式—2)

【実施内容等】

交通誘導員配置計画

現場出入口 交通誘導員配置計画



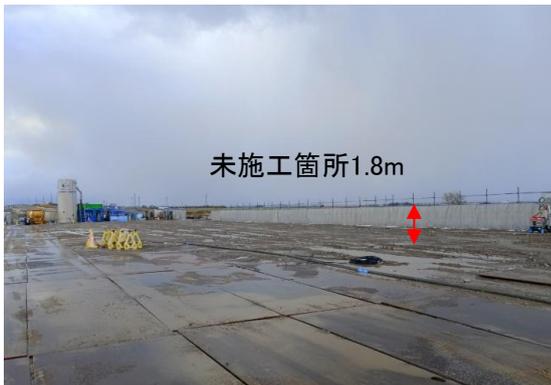
至新潟市中央区方面

飛散防止ネット



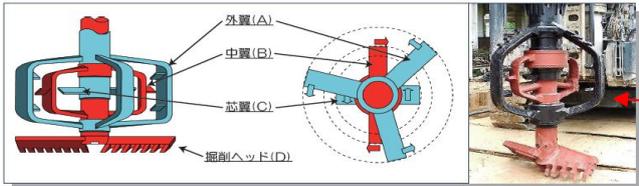
至阿賀野市方面

シート養生状況



エポコラムTaf工法

エポコラムの攪拌翼は、外翼(A)と芯翼(C)とが同一方向に回転し、中翼(B)と掘削ヘッド(D)はそれぞれ異なる方向に回転(逆回転)する独自の『複合相対攪拌』作動により、セメントスラリーと土壌との攪拌混合を行います。この攪拌翼の回転と攪拌翼の形状によって、従来工法で見られる「共回り」「つれ回り」現象を防止し、強制的な「練り込み」作用を持つ三次元的攪拌能力によって品質にバラツキの少ないコラムの築造が可能です。



ホースジョイント部養生

攪拌翼
飛散養生不可

